

一生に一度の人生儀礼 祝い事

帯祝い

妊娠五ヶ月目の戌の日に腹帯を締めて胎児の成長と安産を祈願します

家庭円満・安産・子安の神

木花咲耶姫命

お七夜

生まれて七日目に名前を付け(命名)、半紙に「命名○○○」と書き神棚に供えます

初宮詣

生後、男児は三十一日目、女児は三十三日目に誕生した事を感謝・奉告し、健やかに育つよう、ご加護を祈願します

初節句

生後初めて迎える節句の事。女児は三月三日のひな祭り、男児は五月五日の端午の節句に祝います

当社は今から八百年前の創建と伝えられ、鎌倉時代の文治年間(一一八五〜九〇)右大将源頼朝は、豊島郡滝野川松崎に出陣しました。夫の身を案じた妻政子は後を追いましたが、わらじの傷が痛み出し、やむなく多摩川畔で傷の治療をする事になりました。

逗留中に亀甲山(かめのこやま)へ登ってみると、富士山が実に鮮やかに見えました。富士吉田には、自分の守り本尊である「浅間神社」があります。

政子は、その浅間神社に手を合わせ、夫の武運長久を祈り、身に着けていた「正観世音像」をこの丘に建て、村人たちはこの像を「富士浅間大菩薩」と呼び、永く尊崇しました。

七五三

数え年三歳の男女児、五歳の男児、七歳の女児が十一月十五日に今後の健やかな成長を祈願します

成人式

成人になった人達を祝い神様に奉告します

結婚式

神様の御神縁により結ばれた二人が神様の前で苦楽を共にして明るく楽しい家庭を築く事を誓い合います

年祝い

還暦など、一定の年齢になった事を祝います

これが「多摩川浅間神社」のおこりです。承応元年(一六五二)五月、浅間神社表坂の土どめ工事の際、九合目辺りから唐銅製の正観世音の立像が発掘されました。

多摩川で泥を洗い落としてみると、片足がありません。そこで足を鑄造してお祀りし、六月一日に神事を行いました。

以来、ご祭礼は六月に行っております。

本年の御朱印は日本画家 山下まゆみ氏によるデザインです。山下まゆみ氏のお知らせは御社頭と当神社FBより御案内致します。